

「まあ、大丈夫だよ」

著者	渡辺 弘之
雑誌名	NICかわらばん
巻	461
ページ	2-2
発行年	2011-03-03
URL	http://hdl.handle.net/10631/907

看護大通信

78



されます。

ベトナムの国土

は南北に長く、北

新潟県立看護大学
人間環境科学領域

講師 渡辺弘之

自分の研究テーマがベトナムに関連することもあり、年に一度はベトナムに出かけ数週間ほど滞在しています。

ベトナム

ム人と接している
とよく聞

く言葉があります。それは「ホン・サーオ」(khong sa'o)。英語の「ノー・プロブレム」("no problem", 問題ない)の意味で、「まあ、大丈夫だよ」(「何とかなるさ」というニュアンスで使われます)。

以前、仕事でチャーターした車が大幅に遅れてきたことがあります。

「まあ、大丈夫だよ」

約束の時間に間に合うか心配そうな私をよそ目に、ドライバーはのんびりとこうつぶやいたものです。「まあ、大丈夫だよ」。

近年、ホーチミンの幹線道路は渋滞が発生し、移動時間の予測がつきにくく、

くなっています。ところが車はほぼ予定の時刻に到着。彼はいろんな抜け道を駆使し、予定通りの時刻に間に合わせたのでした。しかし、ベトナム人がいくつ「大丈夫だよ」といつても、実際には「大丈夫でない場合」もあつたりするので、その判断には見極めも要求

ふだんは力を抜いているように見えるベトナム人ですが、いざという時の集中力は目を見張るものがあります。しかし、ベトナム人と一緒に仕事をしていると、その集中力が発揮されるまでの間のおうようさや見通しのゆるやかさが気になつてしまいます。日本では決められたことに従い、努力を尊

ぶことが美德。しかし、自分が考えた通りに物事がうまくいかないと悲観的になったり、怒りの感情を持つてしまうこともあります。また規範を大事にするあまり、考え方に柔軟さを欠いてしまったり、相手に対しても同じ水準の規範遵守を求めてしまいます。

ベトナム人のおつき合いの中で学んだことは数知れませんが、その中で最も私の感覚に馴染んだのはこの「ホン・サーオ」です。明るい話題が絶えて久しい今の日本ですが、「ま、何とかなるさ」という根拠のないポジティブ

思考も時には必要ではないかと感じて

